

戦中
日中友好



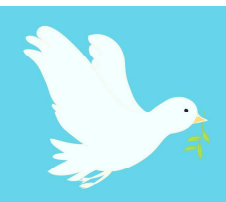
日本中国友好協会

苦小牧支部ニュース

発行所
日本中国友好協会
苦小牧支部
苦小牧市有珠の沢町
7-6-19伊藤方
☎0144(72)5348

2016年12月5日

No. 46



第2回中国百科検定学習会を行いました



中国百科検定の内容が、地元の新聞「苦小牧民報」で紹介されました。

11月29日、第2回目の学習会を実施したところ、新聞で見ましたと、市民の方が1名参加をしてくれました。

まず最初に、前回の復習として、A3用紙9枚の大きな中国白地図を使つて、「省、省都、自然」等の名前のカードを白地図の該当する場所にはつていきます。今回は相当苦労しましたが、今回は学びの成果で、前回学んだ方を中心に、「確か、ここだな」といながら、スムーズに進みましました。一人で黙々と学習するよりは、「ああだ、こうだ」といながら正解を見つけていくのが理解にも、記憶にも良いようです。カードを当てはめるだけでなく、憶え方や、場所の説明

日本中国友好協会(東京)が来年3月に実施する第3回中国百科検定に向け日中友好協会苦小牧支部(伊藤真市支部長)は20日と21日の午後1時半から、苦小牧市立中央図書館で勉強会を開く。

検定は中国への理解を深め友好を促進するのが目的で、中国の歴史や地理、政治、経済、文化、教育、スポーツなど多方面の知識を問う。道内での検定は来年3月20日午後3時から札幌市内の「かでる2・7」で予定。検定の申込期間は12

中国百科検定へ勉強会

日中友好協会苦支部 29日と来月20日

月1日～来年2月20日まで、受験料はコース(1～3級)によって3200円(学生2000円)～5200円(同4000円)。

勉強会では、受験に役立つ基礎知識などを教える。2時間程度で無料。伊藤支部長は「中国のことを知って、親しみを持ってもらうきっかけになれば」と話している。資料準備があるため参加希望者はできれば事前連絡を。問い合わせは伊藤さん ☎0144(72)5348。

理解は絆を強くする 中国の歴史について 学び合いました

などを、それぞれが話しているのも、学びを深めるのに役立っています。言ったところの説明もあり、中国旅行に行っているような気分になります。



カードをはり終わった地図です。この地図を学習を進めていく基本として今後使っていきます。



今日の学習の中心「歴史」に移りました。中国の歴史は長いので、理解が難しいです。まず、時間の流れを理解するため、時代を憶える、それも、日本の時

代とつなげると理解が進みやすいと思います。「日中韓の比較年表」があったので活用しました。中国の時代だけ空白にし、日韓の時代を見ながらカードをはっていきます。思ったより効果的で、「遣唐使は奈良時代だから、ここは唐だ」など、出来事と合わせながら考えていき学びが深まりました。古代から中世がなかなか難しかったです。



年表で何という時代かを？

その後、歴史の3級と2級の問題を解きました。なかなか手強いです。漢字が読めないのが難点で、もつとふりがなを打って欲しいという要望です。次回は、中世から近現代の歴史を学びます。

今回参加していただいた「東条さん」は、「中国をもっと知りたい」と思い新聞を見て参加しました。次回も来ます」といって、テキストなどを購入してくれました。うれしい出会いです。

次回は、12月22日(木)に中央図書館研修室で午後1時半から行います。受験を考えずに参加してみませんか。お待ちしております。

ビック ニュース

苦小牧支部紹介が、日中新聞の新年号に掲載

日中友好協会本部発行の「日中友好新聞」1月の新年号の最初のページに、苦小牧支部の活動の紹介記事が掲載されます。

11月の全国理事会で本部編集委員会から要請があり、支部三役で検討し、記事と写真をしあげ、送付しました。また、支部の「財産」が出来ました。新年号を楽しみにしてください。支部ニュース1月号でも掲載します。



真剣に問題を解いていますよ

☆日中友好協会北海道連と札幌支部の共催です

中国東北地方(旧満州)歴史と文化の旅の報告

第2回 ハルピン・侵華日軍731部隊遺址(後編)

写真4(毒ガス暴露試験の様子の展示)



まり、その際本部建屋を除いてほとんどの施設を爆破していったのです。また、とらわれていた人々(マルタ)のほとんどを収監室内に押し込め、毒ガスを投げ入れて全員を殺害し、生き残った人は皆無と言われています。常時収監されていたのは200人から300人程度で、殺害された「マルタ」は3000人以上いたといわれています。

部隊敷地は広大なもので、見学には有料の電気自動車を用意されていました。部隊本部の建物はそのまま残っていました。2階右端が部隊長石井四郎の執務室との説明がありました。

本館の後方には、とらわれた人々の囚人室跡、ほとんど爆破され基礎しか残されていないようです。

分厚い壁、高い天井をもった凍傷の実験施設跡(廃墟)が残っていました。

この施設址の壁に直径30cmぐらいの穴があります。この穴から被験者の体の部分を低温室側に出させてその様子を観察したとの説明がありました。

同行した一人がその穴から手を出したので、撮影しました。

写真5(凍傷実験室跡)



写真6(細菌培養のための動物飼育施設)



これは、ペスト菌等の培養のための施設内部、コンクリート製の升状の飼育施設でイタチ・ネズミ等を飼っていたということです。建屋そのものは後で復元されたものです。

大きなボイラー室跡、巨大で頑丈な3本の煙突跡がありました。真ん中の煙突

は破壊されています。ここでは、暖房、給湯、発電のほか滅菌のための高温蒸気もつくられていたのだろなか、説明はありませんでした。広島原爆ドームは戦争被害の象徴であれば、この巨大な円筒は加害の象徴であり、戦争の惨禍と人間のおろかさの象徴でしょう。

写真7・8(ボイラー室跡 原爆ドーム)



731部隊について述べるなら欠かせないのは、戦後この部隊の中核にいた人々はその後どんな生きざまをしたのかということ

す。戦後、アメリカ軍と731部隊幹部とで秘密取引が行われ、アメリカ軍に研究データを提供。その代償として、部隊幹部の戦争犯罪を免責されたのです。初代部隊長の石井四郎は戦後米軍と取引し何らとがめられることなく病死。2代目部隊長の北野政次は、「ミドリ十字」社を設立して

います。その他、北里研究所の幹部、医科大学の学長、国立予防衛生研究所など、詫びれることなく、栄達の道を歩んだ者が少なくないのです。

記念館ではこれら幹部の戦後の職場名を展示の最後

に大きく掲げていました。おどろくことに、これら幹部たちは戦後「精魂会」なる組織をつくり相互に連絡・協力し、医学界、薬学会、実業界などで、悪びれることなく栄達の道を進み、進むことができた社会があつたのです。

731部隊の「悪魔の仕業」からどんなことを学んだのだろう。また、こんなことを許し、知らされず、知ろうとしなかった戦前・戦後の日本社会。過去を

学ぼうとしない社会それ

構成する一人ひとり。同じ

過ちをするのは多くの歴史

が示しています。人が人で

なくなるのは決して物語の

中ではないのです。記念館

はこのことを強烈に印象づ

けるものでした。

写真9(部隊幹部の戦後の就職先一覧)

七三一部队原队员战后任职情况			
北野政次 MASAJI KITANO	緑十字(東京) 董事 Green Cross Corporation (Tokyo), director	野口圭一 KEIICHI NOGUCHI	緑十字(名古屋営業所長) Green Cross Corporation (Nagoya Business Office), director
川島清 KIYOSHI KAWASHIMA	八街少年院 Yachimata Reform School	植村肇 HAJIME UEMURA	文部省 Japanese Ministry of Education
伊原岩助 IWASUKE SHINOHARA	国立都城病院附属高等看護学院 Affiliated Higher Nursing College of National Capital Hospital	金子順一 JUNICHI KANEKO	东芝生物化学研究所新潟支所、 预防接种研究中心 Toshiba Institute of Biological Science Niigata Branch, Vaccination Center
高桥传 TSUTAU TAKAHASHI	高桥病院院长 Takahashi Hospital, director	草味正夫 MASAO KUSAMI	昭和药科大学 Showa Pharmaceutical University
西俊英 TOSHIHIDE NISHI	西病院院长 Nishi Hospital, director	鈴木重夫 SHIGEO SUZUKI	东京卫材(卫生材料)研究所 Tokyo Hygienic Material Institute
榊原秀夫 HIDEO SAKAKIBARA	综合病院南病棟勤務 Service of Comprehensive Hospital, Nanyo Hospital	増田美保 MIHO MASUDA	防卫大学 National Defense Academy of Japan
田部井和 KAZU TABEI	京都大学医学部微生物講座主任 Dean of Microorganism Lecture of Kyoto University, Medical Department	黒澤正彦 MASAHIKO MEKURO	黒澤研究所 Mekuro Institute

(河野紘記)

実用会話 基本の文型 1

☆ 私は〇〇です。“我＋是＋〇〇”で、「私は〇〇です」となります。
これを否定する時は、“是”の前に“不”を置いて“不是”と言います。

例句

日 本 人

・私は、日本人です

公 司 職 員

・私は、会社員です

工 程 師

・私は、技術者です

大 学 生

・私は、大学生です

☆ 我 ＋ 是

※ “我＋是”を文頭に置いて、いろいろな私を表現できます。

※ また“我”を“他／她”に変えて彼・彼女はとできます。



中国語講座

中国語に親しんでいますか。
発音が難しいですよね。
がんばりましょう。

No. 24



戦争法反対苫小牧集会・スタンディング

南スーダンPKOに派遣する第11次派遣隊の壮行式が行われた11月19日、戦争法の廃止を求める「19日行動」が全国各地で行われました。苫小牧でも午前10時から「戦争法廃止！苫小牧実行委員会」による「戦争法廃止！スタンディング行動」がホクレンシヨップ苫小牧店前で行われました。

「大切な人を戦争に行かせない！」と書かれた17mの横断幕を掲げ、集まった20人余の人が、道行く人たちに、スタンディングによるスピーチをしました。



九条の会、郵政労働者、若プロの若者、地区労連議長、退職教職員などの皆さんが、次々とマイクを握り、「戦争法反対・廃止」「南スーダンPKO派遣反対」「駆けつけ警護反対」「憲法改悪の反対」を道行く大勢の人に訴えました。スピーチを聞いて、車の中から手を振る人、「がんばってください」とかけよってくる人など、市民のみなさんの関心が続いていることがうかがえました。

編集後記

冷え込みも厳しくなってきましたが、皆さん元気で過ごしてでしょうか。今年も残り一カ月を切りました。2016年、皆さんにとってどんな年だったでしょうか。

平和憲法を持つ日本にとっては、「戦争法」のもとに、海外でpko活動と称して、人に向かって銃を向け、場合によっては殺傷する事態が起きるかも知れないのです。命と憲法を守る活動がいよいよ重要です。国会解散はあるのか、新年から大変な年になるのかも。まずは、良いお年を迎えてください。(薦保 記)

こぶし座 苫小牧公演

～ふるさとの鼓動 北に生きる心を結んで～

○12月7日(木)午後6時半開演

○アイビープラザ・ホール

○会費 一般 2000円 小中高生 500円

○演目 江差祭り囃子 アイヌの歌や踊り 傘踊り

※チケット必要な方 薦保迄(72-1152)

主催 こぶし座苫小牧市公演実行委員会